

# 私の原爆体験

朝枝 サダ子

今度、戦争が引き起こされると、核によって人類は死滅のほかなく、愚かにも人間が人間を滅ぼし合い、地球は瞬間に廃墟となってしまおうのです。

広島・長崎に原爆が投下されてよ、月日と共に人々の心からその恐怖が薄れつつある現在、また再び何時、その恐るべきことが現実となるか、心に寒さを覚えずにはいられませんが。

私は、八月六日の朝、東雲町の我が家を出て、柳橋の近くにあるパーマ屋さんに向かって歩いておりました。八時前空襲警報発令、防空頭布

に身を固めました。が短時間で解除となり、安心して歩きながら空を見上げますと、丁度ビール瓶を逆さにした様な黒い物体がユラユラ降ってくるのが見えました。これが後からあの恐ろしい原爆だったのだとわかりました。

私はそうこうしているうちに目的地のパーマ屋に着いたので、中に入り順番を待つておりました。その中には私を入れて全員で六人でした。

八時十五分頃でしたか、突然外を走っている市電がマグネシウムを焚いた様な異様な光を發して炎上しました。と同時に爆音。灰神樂の中

に私は吹き飛ばされました。熱いと思つた瞬間、真つ暗闇の中に閉じ込められて、不安と焦燥にかられ絶望のどん底にいたが、やがて気を静めて見ると店の長椅子の下に転がり込んでいたので命拾ひしたことがわかりました。しかし呼べど声は無く、出ようにも出られず、地獄の苦しみをしながら無我夢中でやつと外に出ました。助かったのは私一人だったようです。

首や背中から血を流しながら、裸足で阿鼻叫喚（あびきょうかん）の巷（ちまた）を走りました。途中、家は総て形はとどめず、電柱は倒れ、そこかしこで人の唸（うな）り声をする。「助けて！助けて！」と命の限り叫ぶ声、気が狂った様にあてもなく走り続ける人々、はだか同然の姿でヘトヘトになって歩いてい